



脱炭素経営フォーラム

2025年3月5日

銚子の定着人口の減少に歯止めをかけるため、脱炭素を切り口とした創業・事業承継を通じ、働く場所の確保を目指す

取組の意義

取組の背景

人口



- 近隣市町よりも20～30年ほど早く減少が始まっている
- 人口減少率は53.8%
近隣(18-47%)よりも減少速度が著しい

事業所数



- 2009-2021間で約4400から約3100へ30%減少



本取組の意義

地域の人口減少が進む中、脱炭素を切り口とした創業・事業承継を通じて働く場所を確保し、定住人口の減少に歯止めかける

(環境省事業 申請書抜粋「目指す姿・取組の意義」)

- 銚子市ゼロカーボンビジョン基本方針「豊かな自然環境を活かし、持続可能な銚子を未来につなぐ」に向けて、「市民」、「民間事業者」、「行政」が協働により地域一丸となって事業所減少に歯止めをかけ、脱炭素を切り口とした定住人口・地方創生の実現を目指す
- 事業承継・創業支援事業を契機として、支援機関等が地域ぐるみで地元中小・小規模事業者に対してプッシュ型の脱炭素経営支援を行う
- 支援機関等および地元中小・小規模事業者が本事業を通じて経済的メリットを享受し、脱炭素ビジネスとして持続自走できる体制を構築する
- 脱炭素推進にかかる協議会や委員会等で構築した多様な域外関係者や公的機関との関係性をさらに強化させ、脱炭素経営を推進するための知見やソリューションの質的向上を図る

世界が食の脱炭素化に取り組む中、 銚子は食・再エネ双方で魅力的なフィールド

世界的な食の脱炭素の流れ



- 食のGHG排出を含む環境負荷に世界的な注目
 - 食料システム (生産・加工・流通等) によるGHG排出量は、全体の約21~37%¹
- 世界的にその解決を進めるために大きな動き
 - 農業・食領域へのスタートアップの資金調達は約300億USD², 全スタートアップの2倍以上の伸び
- 国内でも官民ともに投資は増加
 - アグリテック・フードテックは718→2,112億円に増加が予想(2021→2030)³
 - 政府も「みどりの食料システム戦略」にて2050年までのKPIを設定・推進

世界的な食の脱炭素の流れ



豊富な自然の恵みがあり、

- 高い日射や風況による太陽光、風力等の高いエネルギーポテンシャルが存在
- 国内トップクラスの食の産業 (漁業や農業及び食品)が存在



• 国内で先行する大規模洋上風力計画



- 野菜の農業産出額：全国15位²
- 春キャベツの収穫量：全国1位²
- 春だいこんの収穫量：全国1位²

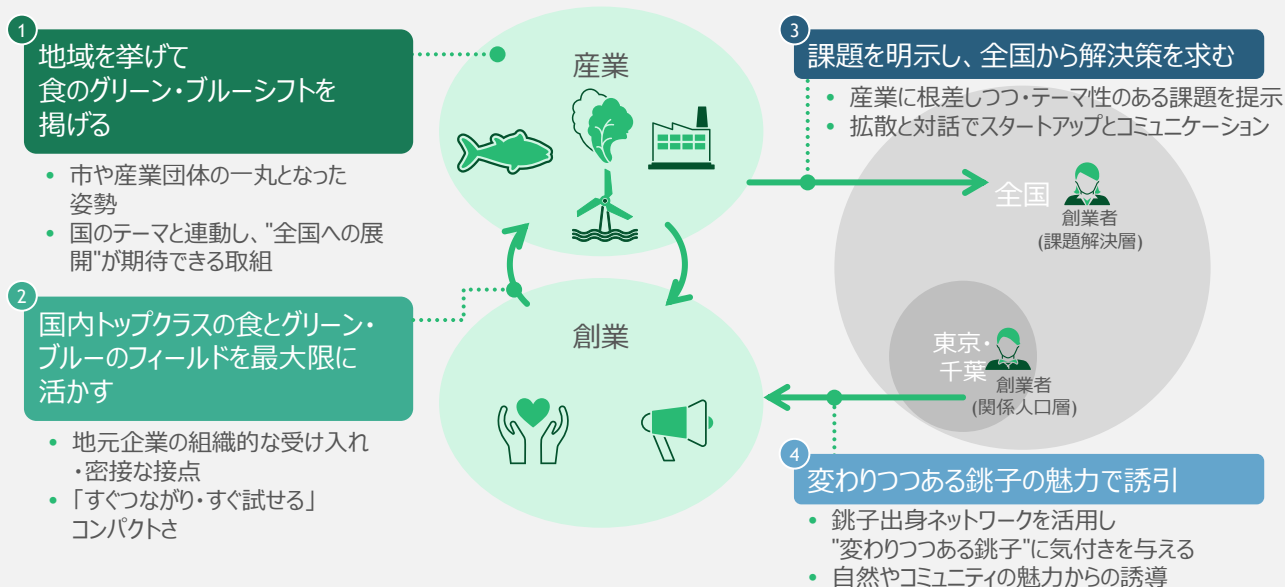


- 冷凍・冷蔵工場数：全国4位¹
- 水産加工場・塩干し品/煮干し品：全国3位¹
- ヤマサ醤油・ヒゲタ醤油はシェア2,4位¹



- 12年連続で全国水揚げ日本一³

食×グリーン・ブルー創業の地、として銚子を打ち出していく



地域を挙げて食のグリーン・ブルーシフトを掲げる

銚子を挙げて食のグリーン・ブルーシフトを掲げるためには、国の交付金等の実利を交えることで地域内外で賛同を得る

コンセプト

地域を挙げて
食のグリーン・
ブルーシフトを
掲げる

- 市や産業団体の一丸となった姿勢
- 国のテーマと連動し、"全国への展開"が期待できる取組



銚子市



国・県

実現イメージ

銚子市ゼロカーボンビジョン



食×グリーン・ブルーの方針・事業立案

- みどり戦略に基づく特定区域の認定申請
- みどり戦略交付金への事業組成・申請
- オーガニックビレッジの宣言
- 基盤整備事業



- 有機農業推進
- グリーンな栽培体系への転換
- バイオマス/地産地消

方向性の合意/
個別事業の組成

創業者(課題解決層)

農業/漁業/食関係者

交付金

みどりの食料システム戦略
基盤整備事業

国内トップクラスの食とグリーン・ブルーのフィールドを最大限に活かす

「すぐつながり・すぐ試せる」を実現するためには、各産業のキーパーソンとの参画・連動が重要

コンセプト

国内トップクラスの食とグリーン・ブルーのフィールドを最大限に活かす

- ・地元企業の組織的な受け入れ・密接な接点
- ・「すぐつながり・すぐ試せる」コンパクトさ

実現イメージ



マッチング/組成する

- ・地元産業の課題のとりまとめ
- ・創業者に対する地元事業者・土地の紹介及びアレンジ

事業承継
創業支援
ラボ

- ・市（水産課）、漁業協同組合

- ・市（農産課）、JAちばみどり、農業事務所、県

- ・三菱商事
- ・三菱食品

- ・銚子市・三菱商事等の会議体

創業者と協業する

- ・スタートアップ等の実証・導入を通じて、自事業の課題解決にチャレンジ
- ・拠点としてインキュベーション施設を運営

インキュベーション施設

- ・セカンドオフィス機能
- ・ワンストップ機能
- ・双発機能

- ・若手組合員ネットワーク（キンメ船団）
- ・漁業法人

- ・若手農家等

- ・三菱食品に改善を相談する野心的な企業等

- ・C-COWS

集まりたくなる
“盛り上がり感”

イメージ



課題を明示し、全国から解決策を求む

銚子に根差した課題と事業フィールドとしての魅力を、スタートアップネットワークや三菱リレーションを通じて発信

コンセプト

課題を明示し、
全国から
解決策を求む

- 産業に根差しつつ・テーマ性のある課題を提示
- 拡散と対話でスタートアップとコミュニケーション

実現イメージ



漁業



農業



食品



洋上風力

共通インフラ

発信内容

解決を求める課題

- 乗組員の高齢化・省力化
- 水温等変化による魚種の変化
- 天候不良への対応
- 燃料高騰に対応する省エネ
-

+

事業フィールドとしての魅力

- 意欲的な取組を行う事業者の存在
-

+

- 生産者の高齢化・省力化
- 燃料・資材等の高騰への対応
- 土壌の疲弊への対応
- 従来から脱却した付加価値
-

+

- 全国流通レベルの規格対応(品質管理、ブランディング、ボリューム等)
-

+

- エンジニア人材の獲得・育成
-

+

-

- 銚子を挙げたグリーンシフトへの方針・姿勢
- 安価・豊富な再エネ
- 豊富な水資源
- 地盤の強さ

発信チャネル

アクセラレータ
(Creww, ZeroOne, JA
アクセラレータ等)

マッチングイベント・交流会
(三菱商事のグループ企業
主催含む)

三菱商事による研修ツアー

発信先

創業者候補
(課題解決層)

大企業
(オープンイノベーションや農業への
進出検討)

Uターン銚子創業者が作りだしている市外の視点で発掘・創出している銚子の魅力を銚子の関係人口に魅せていく

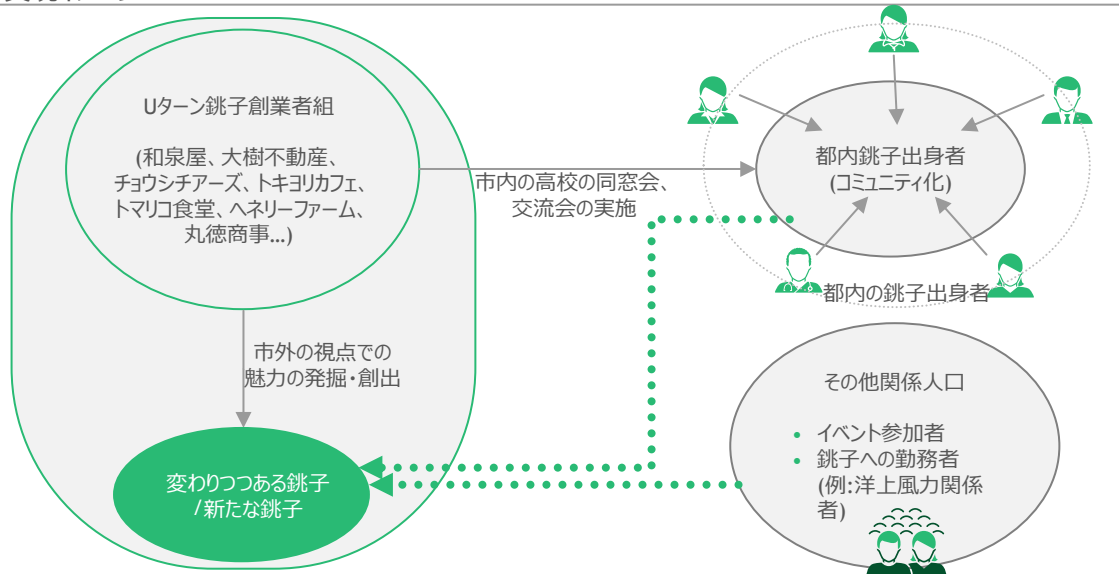
コンセプト

変わりつつある
銚子の魅力で
誘引

- ・ 銚子出身ネットワークを活用し"変わりつつある銚子"に気付きを与える
- ・ 自然やコミュニティの魅力



実現イメージ



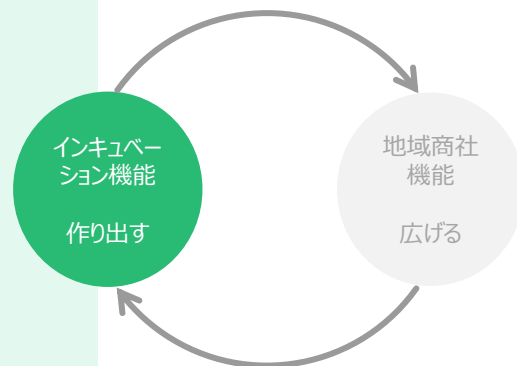
インキュベーション機能

基礎的な支援に加え、
食×グリーンの生きた
ビジネス経験に基づく
実践的な支援

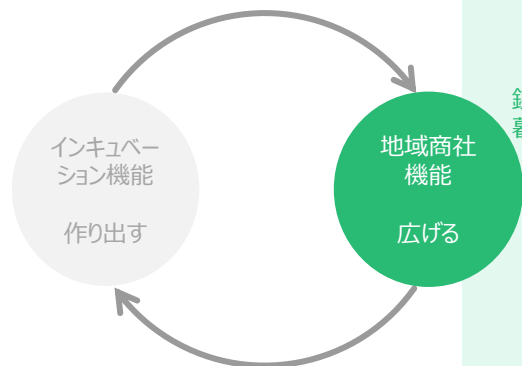
- 基礎的な経営や事業計画
 - 創業スクールメニューが中心
- 銚子における事業の実際
 - 銚子の起業経験者や商工会議所青年会によるメンターとしての対話・相談
- 食×グリーン領域のビジネス具現化
 - 4産業の事業経験者による、創業者の事業計画に対するアドバイス

集まりたくなる
「銚子万博」にて、「盛り
上がり感」を演出

- ワンストップ機能
 - 金融機関、自治体、地元企業・有識者及びメディアへつなぐコーディネータ、関東や全国でのイベント紹介・登録
- 双発機能
 - 相互に焦りと刺激を生むために、空間を共有・思いや取組を見せ合う機会
- 創業者が「その場所にいることがクールだ」という雰囲気を持つ



地域商社機能



銚子らしい
特産品を販売する

- 国内外の販売先の開拓
 - 既存・新産品やサービスの販売先を国内外で開拓
- マルシェでのテスト販売
 - 農家や漁師の方をはじめ、食品加工事業社、地元創業者、若手経営者など地元事業者がテスト販売をできる場の提供

銚子で時間を過ごす、
暮らす魅力を伝える

- 移住促進部門
 - 銚子の産業や地域の魅力を伝えることで、国内外からの移住や職場移転支援を促進
- 空き家活用部門
 - 様々な取り組みを行う場として、空き家を活用
- アカデミック部門
 - 地元事業者同士の新たな学びのコミュニティを形成
- 農業体験部門
 - 銚子特有の産業体験を通して、銚子の魅力を発信
- 水産体験部門
 - 銚子特有の産業体験を通して、銚子の魅力を発信

個別の省エネ・脱炭素の取組を促進するのではなく、脱炭素経営の支援に注力

概要



主なターゲット



インパクト



定着人口

脱炭素への取組

チャレンジ



アドバイザーの相談窓口として中小機構等を活用

① 脱炭素経営の促進

次代の経営者が解決を望む経営課題について、脱炭素を通じた解決の方向性を、議論を通じて引き出す・解決のプランを作成する

次代の経営者

- 自身の代における企業の成長や経営改革に意欲的

企業・業界の成長に繋がれば、雇用の拡大に寄与

- 継続的な脱炭素の取組に繋がる
 - 自社が今から取り組む意義の設定→測る→減らす→測る→減らす...

- 脱炭素を通じた経営課題解決について、仮説立てとコミュニケーションを行うスキルの構築が必要
- 経営改革支援機能（事業承継引継ぎセンター）との連携が必要
 - 企業接点側から企業の経営課題・脱炭素への関心度合い等を経営改革機能に連携

民間企業を活用し、担当者が個別で提案

② 個別の省エネ・脱炭素の取組促進

次代の経営者に対して、エネルギー診断・可視化を誘導の上、結果を踏まえて設備導入等を促す

次代の経営者

- 経営全体を大きく変えようとは考えていない、コスト削減はしたい
 - エネルギーコストの比率が高い業界

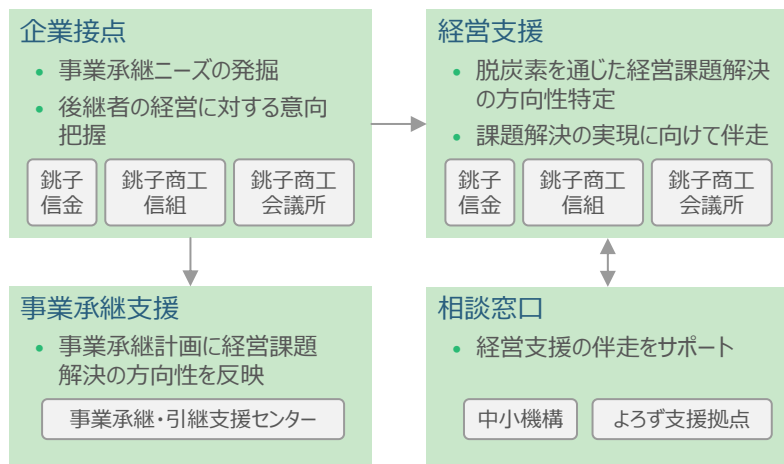
(やや遠いか)

- 一過性の取組にとどまる
 - 測る→減らす

- 可視化やエネルギー診断機能との連携が必要
 - e-dashとの提携や省エネセンターとの議論で不足があるか確認

市内機関に加え、中小機構や引継支援センターと連携した支援体制を構築する

各機関が連携した支援体制



各機関の巻き込み状況

中小機構

- 伴走に向けた**経営支援勉強会の実施**
- 相談窓口としての支援協力

事業承継・引継支援センター

- これまでは現経営者との意見交換を中心に事業承継計画を作成していたが、**後継者目線の意向確認を反映したヒアリングシート**を作成・企業接点機関へ提供

取組内容段階に応じて賛同者を巻き込み、体制を拡大

農林水産 商工部会

- ・ 専門家・先駆者招いた勉強会やワークショップの開催
- ・ 県・農業事務所・漁協協同組合等との連携や施策展開を模索

シティプロモ部 会

- ・ 魅力的なインキュベーション施設の構築・地域商社の設立
- ・ 創業のまち銚子としての情報発信 (東京銚子会の開催)

事業承継支援 金融部会

- ・ 事業承継支援ができる人材の育成
- ・ 事業承継支援を契機とした省エネ・脱炭素のコンサル
- ・ 創業・事業承継の地域ぐるみ関係者間で連携協定締結

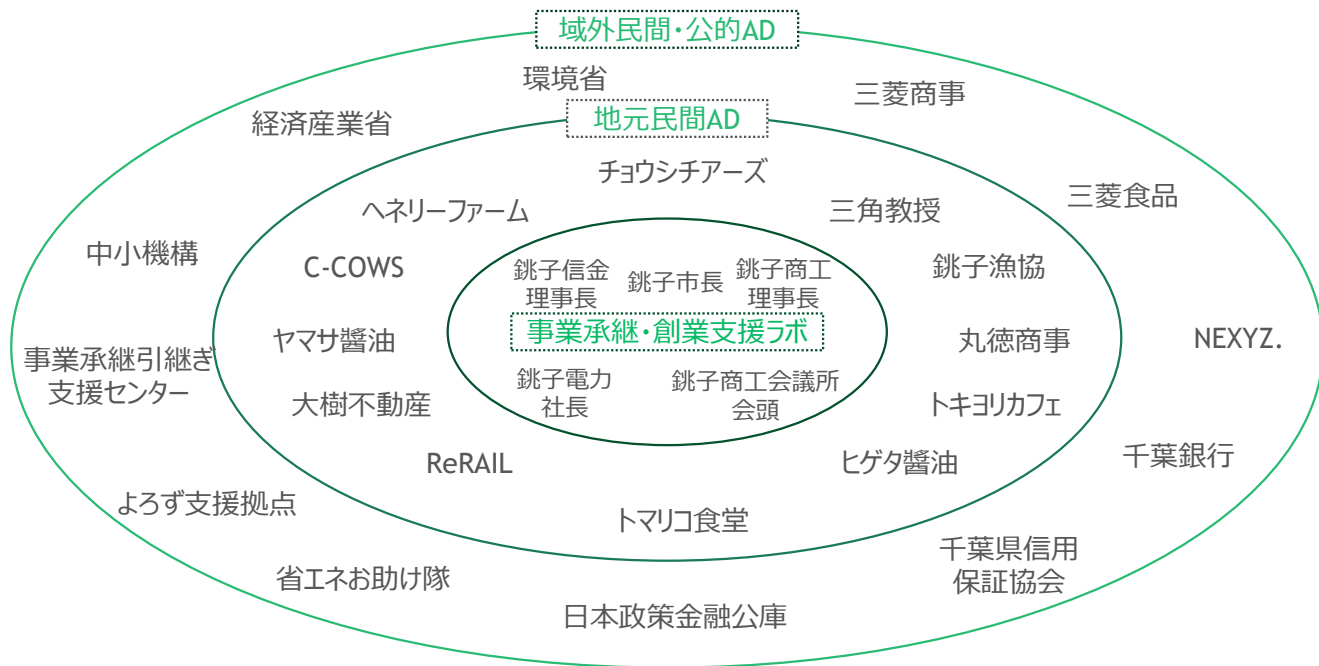


域外民間AD

地元民間AD

公的AD

さらに、事業承継創業支援うボの取り組みは、市長等の合意の元、うボから地元事業者、大手企業や各省にまで輪が広がっている



12/23に中間報告を実施 市長や関係役員へ同意をいただく

実践のサポート

勢いを止めない
ための体制整備

- 事業承継・創業支援ラボ運営協議会 (通称：事業承継・創業支援ラボ) の設置
- 運営を担う地域おこし協力隊の募集

初動のための
運営資金確保

- ラボ設置にかかる運営経費・インキュベーション施設等の提供

内外へ
銚子のスタンス
を提示

- しごと・ひと・まち創生総合戦略への組み入れ
(企業版ふるさと納税の枠組みを含む)
- 脱炭素・創業・事業承継に関する地域ぐるみ関係者間の連携協定締結
- 「食×グリーン・ブルー創業の地」として市長による国内向け情報発信

課題と今後の展望

課題

- ラボと地元民間企業では方向性の共感は得られた一方で、連携は限定的に留まる傾向にある
 - ラボは、自治体等公的機関と地域金融機関で構成されるため、内部の連携は図りやすい一方で、スピード感・マンパワー・新規性が不足することが原因と推察
- 「脱炭素」という切り口で検討すると、アイデアや方向性を狭めてしまう可能性がある



「ぐるむ」メンバーの中からリーダー選出し、方向性と連携を調整することが重要

今後の展望

- 体制を継続させるための仕組み・人づくり
 - ラボを持続・発展させるため、銚子市内の位置付けを明確にするとともに民間のプレーヤーを増やし、よりスピード感を持った組織に昇華させる
- 銚子での取り組みを他地域に横展開
 - 協同組織金融機関である銚子信用金庫・銚子商工信用組合が行う事業承継・創業支援モデルを通じて、近隣市町村への脱炭素経営支援を横展開。



銚子市 事業承継・創業支援ラボ